

# 遥かなる日本へ

## FAR AWAY TO JAPAN

～知られざるポーランド人の物語～

### THE UNTOLD STORIES OF THE POLISH PEOPLE

DIRECTED BY

RADOSŁAW TYSZKIEWICZ

Written by RADOSŁAW TYSZKIEWICZ, KIKI TUSZIN, TYSZKIEWICZ Executive Producer RADOSŁAW TYSZKIEWICZ

Edited by MARCIN SAKOWSKI Narrated by JANEK KRZTA Camera TAKUYA YOSHIDA



# もくじ

はじめに	2
第1章 最初の出会い	3
第2章 アイヌの王	5
第3章 日露戦争とポーランド	7
第4章 「ポーランド孤児を救え！」	9
第5章 暗号解読の父	11
第6章 「かぎりない愛」	13
第7章 平和の使者	15
むすびにかえて	18
(付録) ポーランド史年表	19



# はじめに

初めてポーランド人が日本に来訪したのは、1642年、イエズス会の宣教師であったことは、あまり知られていません。以来、さまざまな職業のポーランド人が日本を訪れ、日本社会に大きな影響を与えてきましたが、知名度は高くありません。そんな歴史に埋もれてしまっているポーランド人たちの功績を紹介するのが、ドキュメンタリー「**遙かなる日本へ～知られざるポーランド人の物語**」です。

この冊子は、ドキュメンタリー「**遙かなる日本へ～知られざるポーランド人の物語**」の「**ガイドブック**」です。作品に登場する人物を歴史的背景を補って紹介し、特にポーランドという国にあまり馴染みがなかった方に、映画をもっと理解していただくために作成しました。また、鑑賞後の備忘録としてもご活用ください。

この映画が両国相互理解の一助となり、友好関係発展に寄与できることを願っています。

また、このドキュメンタリーは、多数方のご好意とお力をお借りして、完成しました。制作に加わってくださった方、インタビュー出演を引き受けて頂いた方、撮影を承諾いただいた施設の方、資料を提供してくださった方、すべての関係者にこの場をお借りして深くお礼申し上げます。

(尚、本紙中の出演者の所属等は、撮影時のものです。ご了承ください。)





# 第1章 最初の出会い

## 天正遣欧少年使節

1582年、織田信長が実質統治する中、キリスト教布教の様子を視察するため日本を訪れていた司祭アレッサンドロ・ヴァリニャーノによってヨーロッパへの使節派遣が計画される。目的は、日本での布教の成果をヨーロッパにアピールし、教皇の支援を得ること。そして、日本人をヨーロッパの優れた物や文化に触れさせ、キリスト教観を変えさせることであった。遣欧使節に選ばれたのはセミナリオで学ぶ4人の優秀な学生たちであった。伊東マンショ、千々石ミゲル、中浦ジュリアン、原マルチノ。

1582年2月20日に長崎を出航。実に3年以上の歳月を費やし、1585年3月22日バチカンへたどり着いた。バチカンにて教皇グレゴリオ13世と謁見する。その年、4人は春から夏にかけてローマに滞在。この間にポーランド人聖職者ベルナルド・マチェヨフスキと出会い、ラテン語の詩篇を日本語に翻訳し、献上したとされる。歴史上初めて日本人とポーランド人が出会った瞬間だった。

## ベルナルド マチェヨフスキ (1548-1608)

### BERNARD MACIEJOWSKI

マチェヨフスキは東ポーランドに位置するルブリン(Lublin)で生まれ、ウィーンのイエズス会神学校で学ぶ。若き国王ステファン・バトーリと親交を深め、リヴォニア戦争に参加。後にイエズス会士の影響を受け、兵役から退き、聖職者になる道を選ぶ。1582年に神学を学ぶためにローマへ渡り、正式に聖職者の地位を得る。遣欧使節がローマを訪れた翌年の1586年ポーランドへ帰国する。

その後、マチェヨフスキはポーランドの司教に任命され、神学校を設立するなど教育方面でも活躍する。1603年枢機卿に任命され、更に1606年にはグニェズノの首座大司教となり、ポーランドのカトリック教会で最高の地位を占める。

マチェヨフスキは1608年に亡くなり、クラコフのバベル城の教会に埋葬される。彼は、当時のもっとも優れたカトリック教の活動家として国の内外で高く評価されている。



2000年ヤゲロ大学の書庫で発見された銀盤。  
ラテン語のダビデの詩篇2節の下に、手書きの日本語記。

## ヴォイチェフ メンチンスキ (1598-1643)

### WOJCIECH MĘCIŃSKI

1598年に貴族の家庭に生まれ、ルブリン（Lublin）のイエズス会学院での初等教育を受け、その後クラクフ・アカデミーで学ぶ。その中で、彼の深い宗教的信念と宣教師としての素地を培った。

家族の反対にもかかわらず、メンチンスキは自らの使命を追求し、ついにイエズス会に入会し、危険な日本での宣教を志願した。彼は、迫害の激しかった日本で殉教死することを覚悟していた。『昔から望んでいた殉教が叶えられそうです。』最後の手紙に書いた。

1642年にメンチンスキは仲間の宣教師とともに長崎に到着した。到着後すぐに徳川将軍府の捜査官に捕らえられ、尋問と拷問の過酷な試練が始まった。彼らはキリスト教を放棄しない限り、水責めと穴責めと呼ばれる拷問を繰り返し受けた。しかし、その残酷な苦痛にもかかわらず、彼らはカトリック信仰への忠誠心を貫いた。

105回の拷問の末、メンチンスキと仲間の宣教師たちは、死刑（斬首刑）の判決を受けた。1643年メンチンスキは殉教死を遂げた。

歴史上、初めて日本の地を踏んだポーランド人とされる。



## イエズス会

イエズス会は、聖イグナチオ・デ・ロヨラ（1491～1556）を中心とする7人の同志によって設立されたカトリックの男子修道会であり、現在総本部はローマにある。

創立者の一人である聖フランシスコ・ザビエル（1506～1552）は1549年の来日と同時に、日本にはじめてキリスト教を伝える。その後、イエズス会は徳川幕府の厳しい禁教政策によって会員の活動ができなくなるまで、日本の教会の発展に努める。

近代に入り、明治政府がキリスト教の宣教を解禁してから、イエズス会は1908年に再来日し、教皇ピウス10世の意向に応じて、東京に上智大学を設立。（イエズス会日本管区資料より）

## FILMING LOCATIONS



【日本二十六聖人記念館】  
日本とヨーロッパの出会いから生まれたキリシタン文化と殉教者のメッセージを紹介する施設。  
所在地：長崎市西坂町7番8号

## INTERVIEWEES



金 亨郁  
日本二十六聖人記念館  
館長



Renzo De Luca  
イエズス会日本管区長



Dorota Hałas  
ジャーナリスト



## 第2章 アイヌの王



### ブロニスワフ ピウスツキ (1866－1918) BRONISŁAW PIŁSUDSKI

1866年、リトアニアのヴィリニウスで、ポーランドの伝統を大切にする愛国的な家庭に生まれた。

1886年、サンクトペテルブルグ大学法学部入学。

1887年、アレクサンドル3世暗殺未遂事件に連座したとして懲役15年の判決を受け、サハリン島に流刑となる。

サハリン流刑中、当初徒刑囚に課される肉体労働やロシア入植囚の家庭教師をつとめる。先住民ニヴフ（ギリヤーク）人の文化に初めて接し、民族学研究に没頭する。

1896年に刑期が10年に減刑された後、1897年、刑期満了するが、その後も極東に残り民族学調査を継続する中でアイヌ文化と出会い調査・研究を開始する。調査を円滑に遂行するためアイヌ語を習得。アイヌ子弟のための識字学校を開設。

彼は、民族学調査に蓄音機やカメラを用いた先駆者でもある。エジソン式蓄音機を使用し、アイヌの民謡、歌謡や会話を録音。後に近代技術の駆使により彼が残した蝋管が再生された。アイヌ語音声の唯一の現存資料。

ポーランド人で、同じく流刑囚であったヴァツワフ・シェロシェフスキ(Wacław Sieroszewski、民族学者、作家、活動家)と共に調査団を組み北海道の室蘭、白老、平取(ピラトリ)、鶴川(ムカフ)でもアイヌ集落の調査を行う。シェロシェフスキも後に日本についての回想記や物語を多数書き残す。

1903年、アイヌ族の村長の姪であるチュフサンマと結婚。二人の子供をもうける。

1906年初頭、サハリンを後にし、東京へ渡る。東京滞在中、日本のアイヌ研究家、社会主義者、女性解放運動家、中国人革命家、ロシア人亡命者たちと交流をもった。ポーランド文学を日本で普及させるために、二葉亭四迷と「日本・ポーランド協会」を設立。アイヌ民族とその文化を愛し、アイヌ救済を熱心に訴えて歩いた。

同年、アメリカを経由し、ポーランドへ帰国。

1907年、幼馴染のマリア・ジャルノフスカ(Maria Żarnowska)と再会、同棲生活を送る。人生の伴侶を得て、充実した至福の時を過ごす。しかしながら、学歴が無いために、研究職につけず、資金不足により学位取得も断念する。一時、博物館や科学アカデミーで勤務するが、第一次世界大戦の戦雲に巻き込まれ、流浪の旅へと出る。

そして、彼の人生は、第一次世界大戦の終結直前の1918年、パリのセーヌ川に投身するという悲劇的な結末を迎えた。真相は未だ不明。パリ北方のポーランド人墓地に眠る。

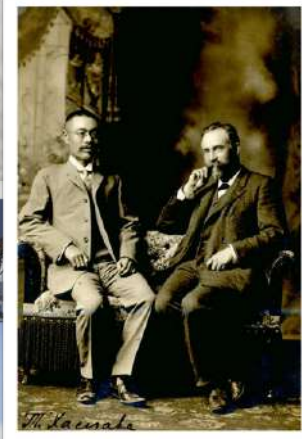


## ユゼフ ピウスツキ (1867-1935) JÓZEF PIŁSUDSKI

ブロニスワフの弟。兄と同じく、皇帝暗殺計画に関わったとして、5年間のシベリア流刑を経験。ポーランド独立運動の指導者。第一次世界大戦後に独立を実現、初代元首となる。

1920年、ソヴィエト＝ポーランド戦争をしかけ、ソヴィエト軍を講和に追い込む。東方で国土を拡張し、その後長期にわたり独裁的権力をふるう。国内では「建国の父」と呼ばれ、英雄的存在。

彼もまた、日本との深い縁があった。日露戦争下の東京を訪問。ポーランド独立の支援を要請し、日本とポーランド同盟案の覚書を持参する。日本政府による大規模な協力は得られなかったが、日本に対して好印象を持ち続けた。



左上から  
ピウスツキがアイヌ語音声を録音した蠟管のレプリカ  
幼少期のピウスツキ兄弟  
白老町に建つピウスツキの銅像  
本郷「中黒写真館」にて二葉亭四迷と記念写真  
アイヌの子供達に囲まれるピウスツキ



## INTERVIEWEES



木村 和保  
ブロニスワフ・ピウスツキの孫



澤田 和彦  
埼玉大学人文社会学研究科  
名誉教授

## FILMING LOCATIONS



〔ウポポイ（民族共生象徴空間）  
国立アイヌ民族博物館〕  
アイヌを主題とした日本最大の博物館  
所在地：北海道白老郡白老町和草町二丁目3-1

# 第3章 日露戦争とポーランド

日本とポーランド。二つの離れた国が急接近するきっかけは日露戦争だった。

18世紀後半、国力が低下し、内政不安に陥っていたポーランドは、隣国により領土が分割され、地図上から消滅した。（参照：ポーランド分割）これに対し、ポーランド人は自主性の回復を求めて何度もロシアに反乱を起こすが、いずれも鎮圧される。ポーランド人作曲家のショパンは、ウィーンに滞在中、ワルシャワでロシアに対する武装蜂起（11月蜂起）が起きたのを知り、蜂起に参加できない悔しさをワルシャワの友人に書き送った。有名な「革命のエチュード」はそのような時代背景の中で作曲された。

そんな中、1904年、日露戦争が勃発すると、日本に対するポーランド人の関心が著しく高揚した。日本がロシアに勝利すると、自分たちもロシアを倒して独立を回復できるかもしれないという大きな希望が生まれた。そして、二人のポーランド人が日本政府のもとを訪れる。ポーランド社会党の指導者であったユゼフ・ピウスツキ（Józef Piłsudski プロニスワフの弟）とポーランド国民民主党のロマン・ドモフスキ（Roman Dmowski）である。二人は別々の主張をもっていたが、日露戦争をポーランド独立の機会と捉え、日本との連携を模索しようとそれぞれ来日している。結局、大規模な協力関係には至らなかったものの、当時ポーランド人の中に生まれた親日感情は大戦を経て今日に至るまで続いている。

## 松山捕虜収容所



日露戦争で戦ったロシア軍の中には、多くのポーランド人兵士が含まれていた。三国分割後、ポーランド領土の大部分がロシアの支配下にあり、多くのポーランド人が帝政ロシア軍へ強制徴兵された。彼らはロシア軍の一部として戦場で戦い捕虜となった。ユゼフ・ピウスツキとロマン・ドモフスキとともに、日露戦争で捕虜となったポーランド軍人に対する特別待遇を日本政府に申し入れた。日露戦争の捕虜は愛媛県松山に收容されたが、ポーランド人兵士はロシア人から隔離され、別の場所で待遇された。收容所の生活は比較的自由で、外出時には地元の人々にもてなされ、負傷者は献身的な看護を受けた。日本に收容された捕虜は7万2000人以上で、そのうち約4600人がポーランド人であったとされる。

## FILMING LOCATIONS



〔坂の上の雲ミュージアム〕

司馬遼太郎の小説「坂の上の雲」をテーマにした展示や催しを行う。歴史を学び、未来への思索の場を提供。  
所在地：愛媛県松山市一番町三丁目20番地



〔雲祥寺〕

日露戦争時、ポーランド人捕虜收容所となった寺  
所在地：愛媛県松山市味酒町二丁目10-7

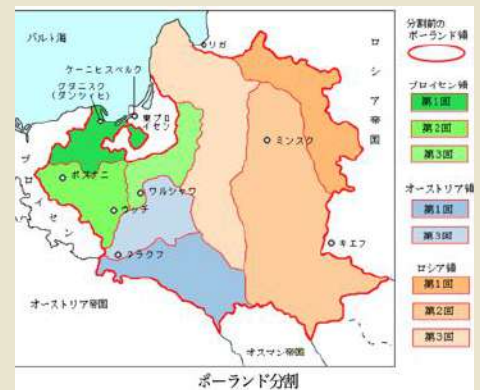


## 歴史! ポーランド分割

ポーランドでは、16世紀後半にヤゲウォ朝が断絶し、選挙王政（選挙で国王を選ぶシステム）に移行した。ただ、ポーランドの選挙王制において、選挙権があるのは有力貴族のみだった。このことが貴族同士の対立を生み、国家の統一維持が困難となっていった。こうしてポーランドは、領土拡大を狙う周辺国からの内政干渉を受けるようになり、操り人形と化していった。

ロシアのエカチェリーナ2世は、親露派の元愛人をポーランド国王にねじ込むなどして、ポーランド全土の領土化を狙った。ポーランドがロシアに奪われることを警戒したプロイセンはロシアとオーストリアにポーランドの分割を提唱した。

1772年、1793年、1795年の3回にわたりポーランドは段階的に分割され、遂には地図上から姿を消した。ポーランドが独立を回復するのは、1919年、第一次世界大戦後のことである。



地図出版 世界史の窓



## 松山ロシア兵墓地

日露戦争で捕虜となり、この地で亡くなった兵士は松山市のロシア兵墓地に埋葬された。97名が埋葬されるが、そのうち19名がポーランド人である。当初「ロシア人墓地」とされていたが、その後の調査でロシア兵の中にはポーランド以外にもウクライナ、ベラルーシ、バルト三国、中央アジア諸国の出身者が含まれていたことがわかり、「ロシア兵墓地」と改称された。勝山中学校の生徒が、月に1回、ボランティアで清掃を行っている。

所在地：愛媛県松山市御幸1丁目531番地

## INTERVIEWEES



稲葉 千晴  
名城大学都市情報学部  
教授



林 尚文  
雲祥寺住職



石丸 耕一  
坂の上の雲ミュージアム  
所長



## 第4章 「ポーランド孤児を救え！」



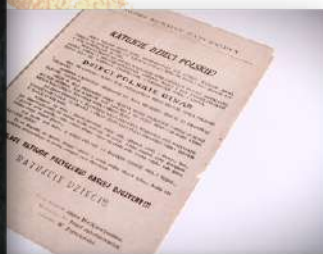
Farewell to Europe by Aleksander Sochaczewski

ロシアは、古くから反体制的なイデオロギーを訴えたり、体制に反抗するポーランド人を国内から排除するために、シベリア流刑にしてきた。そこは、冬には氷点下70°を記録する場所もある極寒の地。鉄格子のない牢獄とも呼ばれる場所だ。

第一次世界大戦でポーランドが戦場となると戦禍を避けて15～20万人といわれるポーランド人がシベリアに逃れた。

1917年、ロシア革命が起これと、内戦がシベリアにまで混乱をもたらす。ソビエト軍と反革命軍がシベリア各地で戦い、ポーランド人たちもそれに巻き込まれていった。家財産を失い、難民となり、凍土の荒野をさまよった。餓死、病死、凍死する人が続出し、親を失い孤児となった子供たちは劣悪な状況下に置かれていた。

1919年、ウラジオストック在住のポーランド人が「ポーランド孤児救済委員会」を設立する。彼らは、欧米諸国に孤児たちの窮状を訴え、救済を嘆願するが応じる国は無かった。最後の頼みの綱として日本政府に懇願することになった。当時の政府はこの状況に深く同情し、日本赤十字社に孤児救済事業を要請する。実際の救済にあたったのは、日露戦争後もシベリアに残っていた日本軍であった。



ポーランド孤児救済委員会の設立者  
アンナ・ビエルキエヴィッチと孤児救済を訴えた嘆願書



1920年、375名のポーランド孤児が敦賀へ輸送された。その後、鉄道で福田会育児所（現在の社会福祉法人福田会）の元へ送られた。福田会は、子供たちに無償で宿舎を提供し、隣接する日赤病院が治療や看護にあたった。レクリエーション行事や旅行も企画された。

1921年、貞明皇后が日本赤十字社を行啓された際、孤児たちを見舞われた。

1922年、第2回目の日赤による救援活動が実行され、388名が保護された。大阪に收容される。

1920～22年にかけて、アメリカ経由でポーランドまでの船便が確保できると、数便に分かれてすべての孤児たちは祖国ポーランドへ向けて旅立った。



2002年、天皇明仁・皇后美智子がポーランドを訪問の際、シベリアから救済された三人の孤児たちと面会。







## FILMING LOCATIONS



### 〔人道の港 敦賀ムゼウム〕

ポーランド孤児と杉原千畝が発行した「命のビザ」を携えたユダヤ人難民が上陸した敦賀港。その歴史と命の大切さを伝える資料館。

所在地：福井県敦賀市金ヶ崎町23-1



### 〔社会福祉法人 福田会〕

児童養護施設として運営を開始し、現在は障害児施設や高齢者施設などの事業を展開。ポーランドとも歴史的なつながりを持つ団体。

所在地：東京都渋谷区広尾4-2-12

## INTERVIEWEES



西川 明徳  
人道の港敦賀ムゼウム  
館長



宇都 榮子  
専修大学人間科学部  
教授



太田 孝昭  
社会福祉法人福田会  
理事長

### 〔関連映像作品〕

「ワルシャワの秋」は、関西テレビにより制作され、2003年に放送されたテレビドラマ。シベリアから救出されたポーランド孤児たちと日本で彼らに関わった人々との交流の物語。子供たちが福田会の施設で過ごした日々や、彼らが日本赤十字社の看護師らと心を通わせていく姿が実話を元に生き生きと描かれる。DVDはAmazon等で購入可能。





## 第5章 暗号解読の父

### ヤン コヴァレフスキ (1892－1965)

JAN KOWALEWSKI

1892年、ポーランドのウッチ（Łódź）に生まれる。

ベルギーのリエージュ大学で化学を学ぶ。

1920年のポーランド・ソビエト戦争におけるワルシャワ防衛戦において、コヴァレフスキが組織したポーランド無線諜報局はソビエト軍（赤軍）の暗号を解読し、ユゼフ・ピウスツキが戦略的決断を下す際に重要な役割を果たした。その結果として、ポーランド軍はワルシャワに総攻撃をかける赤軍に対して華々しい勝利を収めた。

1923年、東京に派遣され、3か月にわたり、日本の諜報部将校にソ連の暗号解読についての集中講義を実施した。また欧州で活動する諜報員が用いていた暗号法に関する講習も行われた。彼の指導の結果、日本軍の暗号及び諜報水準は飛躍的に進歩したとされる。コヴァルスキの講義に感銘を受けた日本軍は将校らをポーランドへ研修に派遣するに至った。また、日本の軍事情報機関の設立や組織化の支援も行なった。

コヴァルスキの日本軍への貢献は称えられ、日本政府により旭日賞が授与された。

第二次世界大戦後、イギリスに移住し、研究と執筆活動を継続する。1965年、ロンドンにて死去。

彼の功績は歴史的に高く評価されており、戯曲や映画としても描かれている。ポーランド軍歩兵中佐。数学者、言語学者、暗号学者。ドイツ語、フランス語、ロシア語など数か国語に精通。





### 豆知識：エニグマ解読に貢献したポーランド人



エニグマ (Enigma)とは、第二次世界大戦でナチス・ドイツが用いた暗号機であり、難航不落とされていた。そのエニグマの解読に道筋をつけたのは、若きポーランド人数学者たちであった。

ポーランド軍参謀本部第二暗号局のマキシミリアン・チェンスキ (Maksymilian Ciężki)がポズナニ大学数学科にて暗号解読の講義を行い、特に優秀であった三人を抜擢し、エニグマ解読の特別班へ召集する。解読の中心的役割を担ったのは、マリアン・レイェフスキ (Marian Rejewski)、ヘンリク・ジガルスキ (Henryk Zygałski)、イエジ・ルジツキ (Jerzy Różycki)であった。

ようやく1918年に独立を回復したポーランドは、東にソ連、西にドイツという脅威に挟まれ、自国が生き延びるために情報収集という必要性に迫られていた。彼らはボンバ(Bomba) や穴あきシートという独自の装置を開発してエニグマを解読していた。

ナチスがエニグマに改良を加えると、ポーランド側は、資金的、人力的に行き詰まり、複雑化した暗号の解読作業続行が不可能となる。最終的には、ポーランドは獲得した技術と装置を連合国 (イギリス、フランス) と共有し、1940年、イギリスが解読に成功する。

## INTERVIEWEES



阿部 昌平  
防衛研究所戦史研究センター  
主任研究官  
一等陸佐



辻井 重男  
中央大学研究開発機構フェロー  
東京工業大学名誉教授

## 第6章『かぎりなき愛』



マクシミリアン コルベ (1894－1941)

MAKSYMILIAN KOLBE

- 1894年、ポーランドのズドゥンスカ・ヴォラ(Zduńska Wola)で生まれる。
- コンベンツアル聖フランシスコ修道会に入会し、神学の学生としてローマへ留学。ローマで司祭叙階を受けた後、クラクフの大神学校の教会史の教授として3年間勤務。
- 1930年、数名の修道士らと共に長崎へ来訪。大浦の木造西洋館に聖母の騎士修道院を開き、月刊誌『聖母の騎士』を刊行。
- 翌年、修道院を長崎市内の本口河内（ほんごち）へ移転させる。また、大浦神学校で哲学を教えた。
- 1936年、ポーランドへ帰国。
- 第二次世界大戦が始まり、1939年8月末、ポーランドはドイツ軍に占領された。ナチスは、コルベの説くカトリックの教えがナチスの思想と相反するとして、アウシュヴィッツ強制収容所へ送還。1941年、妻子ある他の囚人の身代わりを自ら申し出、「死の地下室」と呼ばれる餓死監房で殉教。
- 教皇ヨハネ・パウロ二世は、彼を「愛の殉教者」と呼んだ。
- 1982年、列聖。

ミェチスワフ ミロフナ (1908－1989)

MIECZYŚLAW MIROCHNA

- 1908年、ポーランドのボフニア(Bochnia)で生まれる。
- 1926年、コンベンツアル聖フランシスコ修道会に入会。
- 1930年、コルベ神父に同行し、長崎へ到着する。コルベ神父の手がけた事業や志しを引き継ぎ、発展させていった。
- 1946年、養護施設「聖母の騎士園」を開設。長崎への原爆投下で親を失った子供たちを受け入れ、養育。
- 1949年、「けがれなき聖母の騎士聖フランシスコ修道女会」を設立。
- 1961年、障害者養護施設「みさかえの園」を創立。以後、多数の社会福祉施設を設立し、日本社会に貢献。
- 1969年、社会福祉事業の功労者として勲四等瑞宝章受賞。
- 1989年、58年以上も日本の福祉に献身し、長崎で帰天。





## ゼノン ジェブロフスキ (1898-1982)

### ZENON ŻEBROWSKI

- 1898年、ポーランドのマゾフシェ地方(Mazowsze)に生まれる。
- 1925年、ミサの説教に感銘を受け、コンベンツアル聖フランシスコ修道会へ入会。
- 1930年、コルベ神父らと共に来日し、聖母の騎士修道院の設立に参加。
- 1945年、長崎市で被爆。原爆孤児の世話に尽力。
- その後、東京に移り、廃品回収業者がある「蟻の町」や全国各地の災害被災者を物心両面で支援。
- 1969年、社会福祉の功労者として、勲四等瑞宝章を受勲。
- 1981年、入院先にて教皇ヨハネ・パウロ二世の訪問を受ける。
- 1982年 東京で帰天。東京府中のカトリック墓地に永眠。

「ゼノ神父」、「ゼノさん」と呼ばれ親しまれた。ボランティア活動という概念が根付いていない時代に、自らが模範となり、助けを必要としている人の救済に無償で日本全国を奔走した。彼が日本で蒔いた種は、数々の施設や法人となり、意志が引き継がれている。



## FILMING LOCATIONS



「限りなき愛・ゼノの記念碑」

所在地：静岡県駿東郡小山町大御神888-2  
(富士霊園内)



「蟻の街」の跡地

戦災で家や家族を失った人々が廃品回収を生業に働き、共同生活していた場所。ゼノ修道士の支援拠点のひとつ。  
現在の墨田公園(東京都)の一角。

### コンベンツアル聖フランシスコ修道会

1210年に聖フランシスコがイタリアのアッシジに創立した「小さき兄弟会」が三つの修道会に分割されたうちのひとつ。

1930年、コルベ神父がゼノ修道士らとともに長崎に上陸、間もなく二人の修道士が加わり、同修道会の日本管区の始まりとなる。

創立者フランシスコは、地位も名誉も求めず、社会の底辺に生きる人、貧しい人の間で生きること、謙虚であることを会員に説いた。ポーランド修道士たちの日本社会への奉仕は、正にその教えの体現であった。

## INTERVIEWEES



山口 雅紘  
カトリック本河内教会  
司祭



カシミラ修道士  
聖母の騎士フランシスコ修道女会



Iwona Merklejn  
青山学院大学総合文化政策学部  
教授

## 第7章 平和の使者

ヨハネ・パウロ二世（1920－2005）

JAN PAWEŁ II

本名 カロル ユゼフ ヴォイティワ（Karol Józef Wojtyła）

1920年 クラクフから50kmのヴァドヴィツエ（Wadowice）に生まれる  
1938年 クラクフ・ヤギェウォ大学でポーランド文学専攻  
1943年 共産主義下「地下神学校」に入学  
1946年 ローマ派遣、教皇庁立アンジェリクム神学大学入学  
1948年 神学博士号取得  
1964年 クラクフ大司教に任命  
1967年 パウロ6世により枢機卿に親任  
1978年 第264代教皇に選出  
1981年2月23～26日 日本訪問（広島、長崎、東京）  
同年5月、バチカンにて銃撃を受けるが、一命を取り留める  
2005年4月2日 帰天  
2014年 列聖



史上初、唯一のポーランド人教皇。ポーランドがソ連に従属する状況を間接的に批判し、国民の結束をバチカンから呼びかけた。国民の約90%がカトリック教徒を占める故国を政治的、精神的な面から公に支援し、その民主化に大きな影響を与えた。1980年、ポーランドの労働者たちの自主管理組織『連帯』が誕生し、共産党政権をゆるがす存在となって行った。その背景にあったのが、カトリック教徒としての団結であった。

世界129カ国を訪問。教皇即位中に100回以上の外遊をこなし、「空飛ぶ教皇」と呼ばれた。

精力的にバチカン外交を展開し、他宗教との対話や和解を訴え、融和政策を推進。プロテスタント諸派や正教会との和解を模索し、ローマ市内のシナゴグを教皇として初めて訪れた。カトリック教会による過去のユダヤ人迫害、イスラム教徒に対する十字軍や異端審問、アフリカ・アメリカ大陸先住民への迫害を正式に謝罪するミサを行なった。教会としての謝罪は史上初である。

また、一貫して、戦争反対を貫き、核廃絶と世界平和を訴えた。1981年、日本訪問の際、広島での「平和アピール」で、全世界に向けて平和と団結を呼びかけた。

そして、2005年4月2日、教皇ヨハネ・パウロ2世は天に召された。最期の言葉はポーランド語で「父なる神の家に行かせてほしい」であったと言われている。



## 平和アピール 1981年2月25日 広島

「戦争は人間のしわざです。戦争は人間の生命の破壊です。戦争は死です。」

「過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことです。広島を考えることは、核戦争を拒否することです。」

「各国の元首、首脳、指導者たち、今、この時点で、紛争解決の手段としての戦争は許されるべきではないという固い決意をしようではありませんか。人類同胞に向かって、軍備縮小とすべての核兵器の破棄を約束しようではありませんか。」

(カトリック中央協議会ウェブサイトより抜粋)

## FILMING LOCATIONS



カトリック織町教会  
世界平和記念聖堂の前に立つ  
ヨハネ・パウロ二世の銅像。  
所在地：広島県広島市中区織町4-42



広島平和記念公園  
広島県広島市中区中島町

## INTERVIEWEES



千葉 茂樹  
ドキュメンタリー映画監督



平和の巡礼者  
ヨハネ・パウロ二世



監督作品

コルベ神父の生涯  
—アウシュヴィッツ 愛の奇跡—





# むすびにかえて

このドキュメンタリー映画は、ポーランドと日本は地理的な距離にも関わらず、親愛の情により強く結ばれていることを物語っています。

第二次世界大戦や東西冷戦などにより、国としての交流が途絶えた時期もありました。そのような時代でも、ポーランド人は日本に対する好意を持ち続けました。それは、日露戦争で捕虜になったポーランド人が優遇されたことや、シベリアからの孤児救助など、日本人から受け取った人道愛を忘れなかったからです。心温まるエピソードとして、ポーランドはシベリア孤児救済恩返しとして、1995年の阪神・淡路大震災で親を亡くした被災児童を自国へ招待し、心の傷を癒すことを企画しました。ふたつの国の友好関係は、人と人との心の触れ合いの中で培われて来たと言えるかもしれません。

本作品を通して、日本とポーランドの交流の歴史に触れ、その理解が深まれば幸いです。

そして、この映画が、日本とポーランドの若者たちへインスピレーションを与え、互いに関心を持ち、さらなる友好を育んでほしいとのメッセージが届くことを願っています。



追記：ブロニスワフ・ピウスツスキのご子孫である木村 和也さんがこの映画への出演後にお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



## 遥かなる日本へ知られざるポーランド人の物語 Far Away to Japan: the Untold Stories of the Polish People

製作・監督・脚本：ラドスワフ ティシュキエヴィッチ、ナレーション：菊田 あや子、英語字幕：岩田尚樹ニコラス

撮影：吉田 孝之、編集：佐久間 誠

出演：金 亨郁、レンゾ デ・ルカ、ドロタ ハワサ、澤田 和彦、木村 和保、石丸 耕一、稲葉 千晴、  
林 尚文、西川 明德、宇都 榮子、太田 孝昭、阿部 昌平、辻井 重男、山口 雅稔、カシミラ修道女、  
イヴォナ メルクレイン、千葉 茂樹

2024/日本/日本語/92分/カラー/ドキュメンタリー ©Tyszkiewicz Films



Radosław Tyszkiewicz (ラドスワフ ティシュキエヴィッチ) ポーランド生まれ。人々を惹きつける物語創作に情熱を注ぐ映画製作者。外交バックグラウンドをもち、東京、ブラッセル(EU本部)、NY(国連)に歴在し、直近は駐日ポーランド大使館の大使代理を務める。外交と異文化つながり促進への使命を感じ、創造性を追求することでその更なる高みを目指す。  
東京在住。映画製作、シナリオ執筆、監督、自身の初ドキュメンタリーの製作に邁進。  
プロデューサーとして、製作会社Tyszkiewicz Filmsを設立。

## ポーランド史年表（日本史対表）

西暦		ポーランド史	日本史 映画で取り上げた史実
963		ミエシュコ1世がピャスト朝ポーランド公国を創設	
1025		ミエシュコ1世の後継者ボレスワフ1世の王位が認められ、ポーランド王国に昇格	
1106		ボレスワフ3世が国家統一	
	1192		鎌倉幕府樹立
	1336		室町幕府成立
1370		カジミエシュ3世が死去し、ピャスト朝が断絶。後継にはハンガリー王がポーランド王ルドヴィクとして即位	
1386		王位を継承したヤドヴィガが、リトアニア公ヤギエウォと結婚。ヤギエウォ王朝の創設	
1569		ポーランドとリトアニアが統合し、ポーランド・リトアニア共和国成立	
1572	1573	ヤギエウォ朝が断絶。選挙王政となる	室町幕府滅亡
	1585		天正遣欧少年使節団バチカンへ到着
	1603		江戸（徳川）幕府樹立
1611		ワルシャワがポーランド・リトアニア共和国の首都となる	
	1639		江戸幕府が鎖国令交付
	1642		メンチンスキらが長崎へ上陸
1655		大きな戦乱が続く「大洪水時代」が始まる	
1722		第一次ポーランド分割	
1791		ポーランド・リトアニア共和国にて近代的憲法を採択	
1793		第二次ポーランド分割	
1794		コシチュシコの蜂起（分割に抵抗する武装蜂起）	
1795		第三次ポーランド分割/ポーランドの消滅	
1815		ロシアの衛星国としてポーランド立憲王国が成立	
1830		十一月蜂起（ロシア帝国に対する武装蜂起）-フランスの7月革命の刺激を受け、独立気運が高まる。	
	1854		江戸幕府がアメリカと日米和親条約を締結。開国
1863		一月蜂起（貴族階級（シュラフタ）を中心とした民族主義者・自由主義者によるロシア帝国支配からの解放を求める反乱）	
	1868		江戸幕府が倒れ、明治政府が樹立
	1887		プロニスワフ・ピウスツキサハリン流刑



西暦		ポーランド史	日本史 映画で取り上げた史実
	1904		日露戦争勃発 ユゼフ・ピウスツキ、ロマン・ドモフスキ来日
	1912		大正天皇即位
1918		1917年ロシア革命が起こりロシア帝政が倒れると、ポーランドは独立を宣言。ポーランド共和国が成立	
1920	1920	ポーランド・ソビエト戦争（ポーランドが18世紀分割以前の領土を取り戻そうとソビエトに侵攻。ポーランド軍が勝利し、東方領土を拡大）	シベリア孤児第一陣が敦賀へ到着
	1923		ヤン・コヴァレフスキ、暗号解読技術の講義に来日
	1926		昭和天皇即位
	1930		コンベンツアル聖フランシスコ会修道士来日
1939		ナチス・ドイツのポーランド侵攻、第二次世界大戦の開始。国土の西半分はドイツに、東半分をソ連に奪い取られ、ポーランドは再び崩壊した。亡命政府がパリに作られた。	
	1941		太平洋戦争勃発
1944		ワルシャワ蜂起（ドイツからの解放を求める亡命政府軍とワルシャワ市民が起こした蜂起）	
1945	1945	第二次世界大戦終結し、ドイツ軍が撤退。ポーランドはソ連軍の占領下に置かれる。	広島、長崎原爆投下、終戦
1947		ソ連の衛星国として共産主義政権が支配する「ポーランド人民共和国」が成立	
	1981		ヨハネ・パウロ二世来日
1989	1989	ソ連のベレストロイカにともなう民主化運動を経て、非共産主義系の内閣が誕生。自由主義体制に移行し、国名も「ポーランド共和国」に変更	平成天皇即位
1995		WTO（世界貿易機関）に加盟	
1999		NATO（北大西洋条約機構）に加盟	
2004		EU（欧州連合）に加盟	





## [主な参考文献]

『天正遣欧使節とポーランド：隠された絆』 L. エルマコーワ  
イエズス会日本管区Webサイト  
特別展示「日本とポーランドー国交樹立100周年ー」展示資料解説 編集：外務省外交史料館  
ブロニスワフ・ピウスツキ年譜 (K.Inoue, “B.Piłsudski’s Chronological Record.”)  
ポーランド共和国外務省Webサイト  
駐日ポーランド大使館Webサイト  
世界史の窓Webサイト  
『日本とポーランドにはこんなに熱い絆があった』 Web chichi  
カトリック中央協議会Webサイト  
カトリック仁川教会Webサイト  
聖コルベ館Webサイト  
コンベンツアル聖フランシスコ修道会けがれなき聖母日本管区 Webサイト  
ヨーロッパ史入門（ポーランド史年表）Webサイト  
ヤッポランド Webサイト  
Muzeum Józefa Piłsudskiego w Sulejówku Webサイト  
『Jan Kowalewski Biografia』 Concept Kultura  
『Polscy zesłańcy na Syberii w XIX w. - wkład rozwój cywilizacyjny i gospodarczy』 Webサイト  
Siostry Franciszkańki Rycerstwa Niepokalanej Webサイト  
Archidiecezja Krakowska Webサイト  
Maksymilian Ciężki dla... Enigmy (<https://www.biblionetka.pl/art.aspx?id=71666>)  
Wikipedia



**TYSZKIEWICZ FILMS**



**Poland·Japan  
Foundation**

<http://polandjapanfoundation.com>